追悼エッセイ

伊藤先生追悼文

平清水 史曉*

Professor Ito in My Memory

Fumiaki HIRASHIMIZU

最初に簡単な自己紹介をさせて頂こう．私が科学哲学科学史専修に在籍して居たのは，平成 23 年から平成 26 年に休学（のち，退学）するまでのおおよそ 3 年余りのことである．専門分野は科学の制度史で，修士論文は太平洋戦争期の日本の科学技術動員についてまとめた．在学中は科学史を専攻していたので，もっぱら伊藤先生にご指導を賜る機会が多かった．最終的には中退の止む無きに至るような不出来な教え子であるが，それでも在学中に伊藤先生からいただいた数々のご厚情に対する感謝と敬意，そして哀悼の意を込めて，ここに伊藤先生との思い出を綴っていこうと思う．

伊藤和行先生が一流の科学史家であったことは周知のことだが，私個人としては，科学や科学史に実に愉快そうに取り組んいらっしゃったお姿の印象が強い．もちろん愉快といっても生半可な取り組み方などではなかった．先生に比べれば私などは科学史家としては駆け出しの若輩者だったが，そんな私にすらもその楽しさや学究の徒としての誇りを伝播させてくれるほどの熱量を持って取り組んでいらっしゃったのである．在学中に先生が私に指導して下さったことも，科学史そのものというよりも（もちろんそれもあるが），科学史への取り組み方，あるいは，それを楽しむ姿勢である．

在学中，簡易望遠鏡を手に入れたことがある．この望遠鏡は，平成 23 年に受けたガリレオを主題とする授業の，ちょうど望遠鏡の発明発展史に関する話をしている時に伊藤先生が紹介して下さった代物だったと記憶している．この望遠鏡はいわゆるケプラー式望遠鏡で，視野が上下転倒して見え，倍率は 15 倍ほどであった．望遠鏡の性能上，これを使えば月のクレーターを観測することができ，また，条件次第では木星の衛星すらも観測することができるということであった．私も下宿の窓からよく夜空を観測したものだが，ついに木星の衛星を観測することはできなかった．なお，視野が上下転倒して見えるケプラー式の望遠鏡は天体観測においてはその欠点が問題にならないと言われているが，これが実際に覗いてみると取り回しが存外難しく，私など

* 陸上自衛隊第 6 後方支援連隊衛生隊

は月を視野の中に収めるのが精一杯であった．この望遠鏡は今も私室の机の中にあり，たまに取り出しては現役時代を懐かしみつつ，相変わらず取り扱いに四苦八苦しながら夜空の星々を覗いて楽しんでいる．

天体観測に因んだ伊藤先生との思い出をもう一つ．平成 24 年 5 月 21 日の早朝，129 年振りに金環日食が見られるということで，確か時間は午前 6 時を過ぎた辺りだったか，平素よりも早い時間帯に起床して家を出た．観測場所は京都大学吉田キャンパス本部構内の正門入ってすぐのところ，百周年時計台記念館前の広場だった．私がこの場所に到着する頃には既に大勢の人々が集っていて（学生だけでなく親子連れや年配の方の姿もあった），サングラスや遮光フィルムを通して早朝の空を覗き見ていた．私もすぐにその場の大勢に混じって観測を始め，やがて始まった 129 年に一度という世紀の現象に夢中になった．

今になってこの時の金環日食の観測を振り返ってみると，この日この時間に金環日食が起こることも，それが 129 年に一度という珍しい現象であることも，観測に適当な場所を教えて下さったのも，また，紙で簡単に工作できる遮光フィルムの観察セットを予め私に配布して下さったのも伊藤先生に他ならない．要するに観測のためのお膳立ては全て伊藤先生がして下さって，その上で私は美味しいところだけ頂戴したという恰好である．なぜこのようなお膳立てを伊藤先生がわざわざ私のためにして下さったのかというと，特に教育的な配慮といった類の高尚な理由ではなく，単純に，面白い現象が起こるからそれを私でも楽しめるようにとの親切心だったのだろう．何となれば，ご自分が楽しいと感じることは他の人だって十二分に楽しめるものなのだ，と．そんな風な純粋なお考えの持ち主だったのではないだろうか．もちろん，天体観測に興味を持たない人もいるだろうが，金環日食，それも 129 年に一度という一生に一度しかお目にかかれない珍しい現象であれば，普段は特に天体観測に興味のない人をも惹きつける魅力を持っていることは確かだろう．私も伊藤先生のお膳立てによって上機嫌で観測に出かけた者の一人なので実体験として言えることだが，伊藤先生は，科学の魅力に人を惹きつけることがとてもお上手だったのである．

伊藤先生が私以外の人にも科学の楽しさについて普及していたのを垣間見た時の話もしておこう．生前，伊藤先生が小中学生向けの科学史の出前授業をなさっていたことは多くの方がご存知だろう．私が先生の出前授業に関わることは基本的には無かったが，一度だけ，先生が出前授業に出かけるのではなく，子供達を大学キャンパスへ招いて実際に講義室で授業を受けてもらうという体験学習の機会にお手伝いさせていただいたことがある．その時の記憶はもはや定かには思い出すことができないが，確

か，ガリレオや望遠鏡について子供達でも理解し易いように噛み砕いた内容をお話されていたのではなかったかと思う．大学の講義室という知的な空間で授業を受ける機会は，子供達にとっても知的好奇心を掻き立てられる有意義な経験になったことだろう．伊藤先生がどこまで意識的になさっていたのか今となっては知りようもないことである．先生にしてみれば単に子供達を交えて科学史談義をすることが楽しかっただけかも知れない．しかし，こうして科学が知的で楽しいものだということを知った子供達は，自然と科学に興味を抱き，また，意欲的に科学に取り組んで行くようになるかも知れない．そうして，その中から，次代の科学の発展に寄与する研究者が生まれる可能性だってある．先生は「まさか，僕がそこまで考えてするわけないでしょ」と苦笑いされるかも知れないが，伊藤先生がなさっていたことは，正しく，そういう未来に向けた科学の育成だったと言っても過言ではないだろう．

こうやって在りし日の伊藤先生のお姿を思い返してみると，伊藤先生の授業や研究指導を受けている時，あるいは，天体観測についてあれこれと教えを受けている時が私にとって本当に楽しくて充実した日々であったことが思い出される．思えば，私が生前の伊藤先生にお会いすることができた最後の機会は，令和元年の夏頃のことであった．私用で京都を訪れた際，折角なので伊藤先生や伊勢田先生，研究室の後輩達に挨拶をしようと思い，京都大学の吉田キャンパスまで足を運んだ．そこで伊藤先生との数年ぶりの再会を喜んだものだが，まさかそれが伊藤先生との今生の別れになるなどとこの時は思いもしなかった．諸行無常は世の常とは言え，こうして伊藤先生との思い出を綴っていると，今更ながらに先生への追慕の念が強まることを禁じ得ない．

先生は一生涯にわたって研究者としての道を歩まれ，知ること，学ぶこと，考えることを愛し，また，それを他者をも巻き込みながら楽しんで取り組んでいらっしゃった．そういった科学とその歴史を愛する者にして，その楽しさを他者にも伝播させていく情熱をもった教育者としての一面をも併せ持つ歴史家，これが私から見た科学史家伊藤和行先生の等身大のお姿である．私にとっては寂しいことだが，伊藤先生の人生と私の人生とが交差したのはほんの一瞬の出来事に過ぎない．しかし，たとえほんの一瞬であったとしても，私はこの偉大な科学史家に教えを受けたことを幸せに思うし，受けた教えを大切にしていこうと思っている．

これまで人様の前に晒すには些か気後れしてしまうような取り留めない文書を書き綴ってきたが，伊藤先生ならこんな出来の悪い教え子が書き散らした稚拙な文章に何とコメントして下さるだろうかと考えてしまう．お叱りを受けるだろうか．想像するに，この不出来な教え子をどう指導をしたものかと苦慮されながら，それでも少しで

もマシな内容になるようにと的確な助言で私を導こうとしてくれるような気がする．私が修士論文を執筆して苦悩していた時が正にそうであったように．

伊藤先生，今まで本当にありがとうございました．今は地上よりもずっと星々に近い場所で天体観測に勤しんでいらっしゃるのではないでしょうか．心行くまでご堪能下さい．

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます．心からの敬意と感謝を込めて．